

令和7年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人 博乃会 認定こども園 日吉台保育園

1、本園の教育目標

法人の方針を踏まえ、年間を通してカリキュラムに基づき、計画的な保育を行うとともに、子ども一人一人の発達や個性を尊重し、安心して過ごせる保育環境の中で心身ともに健やかな成長を支える保育の実践をしていく。また、円滑な小学校との接続に繋がるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置き、自己を十分に発揮し、遊びや生活を楽しんでいけるようにしていく。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ◇姉妹園との会議や職員会議を通して保育の振り返りや情報共有を行い、保育内容の改善に努める。
- ◇園内研修を通して、専門知識の習得を図り、職員一人一人の専門性を高めるとともに保育の質の向上を目指す。
- ◇身体を十分に動かす事が出来る活動や新しい取り組みを取り入れていく。

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	幼保連携型認定こども園 教育課程のねらいや指導の方向性について全職員が同一の認識を持ち、組織として一貫した教育の実践が出来るようにした。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	現状を分析し、将来目指す姿を描き、その実現に向けて段階的に実行出来るように計画をたてて保育を行った。また、子どもの発達の理解や一人一人に応じた関わりを深めた事で保育の質の向上に繋げる事が出来た。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	研修計画を立て、定期的実施している。 ■心肺蘇生法、エピペン、SIDS研修 ■感染症研修 ■造形研修 ■人権研修 ■キャリアアップ研修 ■栄養士研修 ■絵本研修 ■マーチング・和太鼓研修
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	職員は、降園時や連絡帳で保護者と様々なやり取りをしたり、懇談を通して、子どもの様子や成長を丁寧に伝えたり出来た。また、保護者の要望や苦情があれば迅速に対応した。
教職員の指導能力向上	園内研修や保育の振り返りを通して、実践力を高め、組織的に保育の質向上を図るようにした。

権限委譲と人材の育成	行事に向けての取り組みの中で担当を決め、ミーティングを事前に行い、取り組みの流れを知り、情報共有しながら無理なく年間を通しての職務を覚え、自立した職員の育成に努めた。
園児に接する時の基本姿勢を周知徹底	担任間で連携を取り合いながら子どもの育ちに応じて段階的に生活習慣の自立に向かって進めていく事が出来た。また、「人権擁護のためのセルフチェック」を用い、子どもを尊重し、人権への意識を高め、自らの保育を振り返える機会となった。
保育終了後の延長保育	標準時間である11時間保育終了後に延長保育時間を設ける事で、育児と就労の両立の援助している。延長保育を利用している園児が長時間の保育が大きな負担とならないよう、絵本の読み聞かせや保育教諭と関わりながら遊ぶ事で、落ち着いて過ごせるよう工夫している。
食育に関する実践	行事食や旬の食材を取り入れ、季節感を味わいながら食を楽しめるように工夫している。また、食育活動を通して、食事マナーや栄養に関する知識を伝えている。 保護者には、食育だよりや給食写真を通して、献立だけではなく健康や栄養情報の知識や食事作りのアドバイスを実施し、食への関心を深められるようにしている。
幼稚園の情報を発信	園の教育方針や取り組み状況をホームページや園だより、その他のプリントで情報発信している。
園舎・園庭などの環境整備	怪我や事故予防の為、毎日、園庭や遊具の安全確認を行っている。また、近年の気候変動で気温が高い日が続く為、遮光ネット、テントを設置し、子どもの過ごしやすい環境を整えている。室内では、職員間で怪我が起こりやすい場所の共有をし、事故防止に努めている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年間を通して計画性を持って無理なく、保育に取り組める体制づくりを構築する事が出来た。また、職員間で話し合いの機会を多く設けた事で、保育内容の見直しや職員同士が協力して活動に取り組む事が出来た。職員のスキルアップとしては、様々な分野での研修を取り入れ、受講する事で、専門的知識の習得を図る事が出来た。行事では、日々の積み重ねを保護者に観ていただく機会となり、子どもたちの成長を喜び、感謝の声を沢山いただいた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	発育や発達に心配のある子どもに対しては、個別に懇談を行い、保護者、児童発達支援教室や療育機関と連携を図り、個々に心身の発達の援助をしていく。
園に対する保護者の満足度の把握	卒園児の保護者を対象に、保育内容、職員対応、園の体制等に対するアンケートを用い満足度の把握に努めていく。
安全管理	消防法第8条(防火管理者)により、防火管理者を定めて防火管理を行っている。 毎月行う避難訓練や年4回の地震時訓練、防犯訓練を実施し、避難訓練では、消防署の指導も受けながら避難訓練の内容の充実を図る。
自然災害時の危機管理体制の構築	気候変動による自然災害や非常時の危機管理や避難方法について災害対応マニュアルを定期的に教職員間で確認を行う。 常に最新のニュースや気象情報を得られるような環境づくりを実施。 ※熱中症指数やPM2.5などの情報も考慮し保育を行う。
保護者への情報提供とより正確な要望把握	入園時や個人懇談を通して当園の教育方針や園を取り巻く情報を提供し、要望の把握をしている。
特別支援教育の充実	支援が必要な子どもたちへの関わり方を職員間で話し合い、一人一人の発達や成長に合わせた指導計画を基に、集団生活へのスムーズな移行が出来るようにしていく。また、児童発達支援教室や療育機関と連携を図る中で個々の発達に添った継続的支援の充実を図っていく。

6. 学校関係者の評価

保育や行事を行う上で、年間を通して計画的に進められている。また、職員が様々な研修を受け、専門性を持って保育に携わっている事が子どもたちの成長に繋がっていると感じた。

配慮を要する子どもに対し、どのような援助や環境がふさわしいかを職員間で協議し、実行しているところに賛同できる。また、気候変動による自然災害に対しての対応も職員間で周知されていると感じた。

子どもたちが自分で考え、遊べるような環境づくりがなされている事を高く評価したい。